

デュエット DUET

2020.4
VOL.29

GUIDE DOG
MAGAZINE

特集

もっと知りたい! 盲導犬のこと

～盲導犬の受け入れ どんなことが心配ですか?～

寄附金控除の対象になります

DUETサポーター

継続的にご支援を
いただく寄附制度です



盲導犬の育成普及事業を
継続的にご支援いただく
寄附サポーター制度を設立しました。
ご支援方法:
郵便・銀行、クレジットカードより
お選び頂けます。

月1 サポーター	クレジットカード限定 500円 / 1,000円
サポーター (年1回)	3,000円 / 5,000円 / 10,000円
法人 サポーター (年1回)	50,000円

募金箱設置店も
募集中



クレジットカードでのご寄附は
こちらから



まずは、お気軽にお電話ください。 /

☎03-5367-9770

DUET

2020年4月発行 編集人/篠田 林歌 認定NPO法人 全国盲導犬施設連合会 発行
〒162-0065 東京都新宿区住吉町5-1 吉村ビル2階
TEL.03-5367-9770 FAX.03-5367-9771 www.gd-rengokai.jp

年1回4月発行



ケース①「犬は入れません」

法律のお話

身体障害者補助犬法(※)

お店や病院、ホテルなど不特定多数の人が利用する施設や乗り物を、障害のある方が盲導犬、介助犬、聴導犬(総称「補助犬」)を同伴して利用することを拒んではいけないとする法律です。

障害者差別解消法

障害のある人への差別をなくすことで、障害のある人もない人も共に生きる社会を作ることを目指した法律です。

障害を理由にして区別や排除、制限をすることを禁止し、障害のある人から対応を求められた場合、負担が重すぎない範囲での対応を求めています。

盲導犬拒否の理由として、よく言われるのが「飲食店なのでペットはダメ」、「動物は入れません」。
盲導犬とペットが同じと扱われているケースです。
法律(※)で盲導犬の同伴は認められていることを説明すると入れることもありませんが、中にはそれでもご理解頂けないケースもあります。



足元で静かに待ちます

盲導犬はむやみに吠えたり、突然おしっこをしてしまうことはありません。どこでも落ち着いて、待機できる犬が選ばれて訓練されています。店内でもウロウロすることもなく、ユーザーが食事するときなどは

実際は?

盲導犬でも犬は犬。粗相したり吠えたりして、お店を汚す、他のお客様にご迷惑をかけることはないのでしょうか??

ここが不安:



受け入れ側



定期的
にトイレに行けて
スッキリ♪

犬の腰にベルトを付けて「ワン・ツー」の掛け声で排泄します。

排泄の様子

足元で静かに待っています。フードも決まっていますので、人間の食事に興味を持つことはありません。また排泄は、ユーザーが時間をみて定期的に促します。排泄物を回収するグッズも携帯していますので、床を汚すこともありません。

特集

もっと知りたい!盲導犬のこと

~盲導犬の受け入れ どんなことが心配ですか?~



(※1) 盲導犬ユーザー...盲導犬使用者のこと。
(※2) 補助犬:盲導犬・介助犬・聴導犬の総称
以下、ユーザー。

口コミで大人気のレストランに行きたい、気軽に日々の買い物がしたい、一人で病院に行ける、盲導犬ユーザー(※1)の皆様はやっと行きたい場所へ自由に出かけられると期待に胸を膨らませます。でも...

残念ながら盲導犬同伴を理由に入店・利用を断られるケースが後を絶ちません。なぜ拒否は減らないのか?

東京オリンピック・パラリンピック開催により世界各地から補助犬(※2)を連れてお客様の来日が想定される中、改めて受け入れ側の断る理由から解決の道を探ります。

ケース③ 「毛が飛び散るからため」

ユーザーは盲導犬と外出する際は、盲導犬にコートを着せる、敷物を持参するなど、出来るだけ犬の毛が飛び散らないように各自が配慮しています。

また普段からブラッシングやシャブーなどにより、盲導犬の身体は清潔に保たれています。

そして盲導犬の病気を予防するた

実際は？

盲導犬と言っても犬ですから、毛が飛び散りますよね。そのあとの掃除も大変だし…。そもそも、盲導犬の世話・健康管理はしっかりされているのでしょうか？

ここが不安…



受け入れ側

「座席に毛が飛び散る」、「感染症予防のため」など、衛生面を懸念して盲導犬の同伴を拒否されるケースもあります。



コートを着せて毛が飛び散らないように気を付けています

これらの盲導犬の健康・衛生管理は法律でユーザーに義務付けられており、盲導犬協会からも十分な訓練・指導を受けていますので、盲導犬と社会参加するユーザーへのご理解とご協力をお願いします。



気持ち良いな～♪♪

ユーザー自身の手で盲導犬をブラッシングやシャンプー

ケース② 「外に繋いでください」

「盲導犬は外に繋いでください」、「通院には盲導犬ではなくて、ご家族と一緒に来て欲しい」と条件を付けられて拒否されてしまうケースもあります。

ここが不安…



受け入れ側

狭いから盲導犬がいるスペースがないのです。犬が嫌いなお客様・患者様もいるかもしれないし…。それに盲導犬は断ったけれど、人は断っていませんよ？

実際は？

盲導犬を外で待機させることは、盲導犬の責任者であるユーザーが管理できない状況であり、犬にとっても不安の強い環境となり、望ましくありません。



今日はどこへ行くのかな？

受け入れ側にはユーザーを拒否したつもりはないかもしれませんが、ですが、盲導犬を拒否することは「盲導犬を必要としている人をお断りしているも同然になってしまうのです。」

「狭いから無理」と一方的に決めつけず、盲導犬を受け入れるにあたり、不安なことがあれば遠慮なくユーザーに直接尋ねるか、盲導犬協会にご相談ください。



お買い物も一緒に

大切なのはコミュニケーション。

他のお客様への対応としては、ステッカー(P9参照)やポスターで盲導犬が入店できることを日頃から表示しておく、ユーザーを席に案内する前に隣のお客様に「盲導犬と同伴の方をご案内しますがよろしいですか」と伝えて了承を得ることなどが挙げられます。皆が気持ちよく入店利用できるよう、ご配慮をお願いします。

盲導犬ユーザーからのメッセージ

盲導犬が受け入れられる文化へ



大沢郁恵さん&盲導犬レディアン
(神奈川県)

徐々に目が悪くなり、買い物や外出に困難や恐怖心を感じていました。このままではいけない、楽しく生きていきたいと決心し、盲導犬ユーザーになりました。

レディアンというと、迷っても安全を確保してくれるので、「噴水が近くにある」、「カレー屋さんができたんだ」と楽しんで歩くことができます。



常に躊躇してしまう・・・

レディアンとの楽しい毎日の中で、残念ながら盲導犬の同伴拒否もあります。

一番多いのは飲食店です。衛生面や犬アレルギーなどを理由に断られますが、レディアンには1カ月に1度シャンプーをし、ブラッシングも2日に1回は必ず実施して、清潔を保っています。

受け入れ拒否をされると、まるで人間性そのものを否定された気分になり、とても落ち込みます。受け入れ拒否が続くと、みなさんが気軽に飲食店に入るような感覚ではなく、次も断られるのではないかと、お店に行くのを常に躊躇してしまうのです。

「サービズドッグ?」→「イエス」でOK

ニューヨークへ旅行に行った時、飲食店で受け入れ拒否は一度もありませんでした。予約の時にも盲導犬のことを言う必要はありません。なぜなら、受け入れるのが当たり前のため。

美術館では、ガードマンが近づいてきて、「サービズドッグ?」と聞かれ、「イエス」と答えると、快く入館させてもらいました。日本でも、その一言で全てが受け入れてもらえる文化になればいいなと願っています。

レディアンと暮らすようになり、本当に生きるのが楽しくなり、キラキラした毎日を過ごせるようになりました。私がレディアンに会えたのは奇跡のような気がします。

盲導犬と過ごせることに感謝しつつ、今日も楽しく歩いていきます。

嬉しかった!!/ あんな場面 こんな場面

ユーザーの 体験談

飲食店で

店員さんが、「ごく当たり前に店内を案内し、何も言わずとも、4人掛けテーブルにあった椅子を一脚、盲導犬がテーブルの下に入りやすいように移動してくれました。」

駅のホームで

駅員さんから介助を申し出られましたが、慣れている駅だったので、それをお断りしました。

「では、見守らせていただきます」と言われまして、電車に乗った際、「先ほどの駅員です。それではこれで失礼します」と声をかけてくれました。
(黙ってついてくる駅員さんも少なくない中、きちんと声をかけてくださったのが嬉しかったです。)



まずは受け入れを

盲導犬同伴の対応にお困りのことがあったら、ユーザーにそれを伝え、どうすればよいかお尋ねください。

誰かが一方的に我慢する必要はありません。

盲導犬を連れての方も、そうでない方も、大切なお客様です。

「どうすれば、盲導犬をお連れのお客様にも気持ちよく利用して頂けるのか?」

正解はお客様とのコミュニケーションの中にあります。

皆様に支えられ

盲導犬はこんな一生を送ります



1 誕生

盲導犬に適した血統を持つ繁殖犬から生まれます。

2 生後2か月頃

パピーウォーカー（子犬を飼育するボランティア）の家庭で、愛情をこめて育ててもらいます。

3 訓練スタート

1歳になると、盲導犬協会に戻ってきて、約6～12ヶ月間、盲導犬になるための訓練を受け、その間に盲導犬としての適性が評価されます。

4 共同訓練

盲導犬としての適性が認められ、訓練を修了した犬は、視覚障害者との共同訓練に入ります。視覚障害者は、盲導犬との歩き方や世話の仕方を学びます。さらにユーザーとなる視覚障害者の生活エリアで歩行指導も受けます。

5 共に歩く

ユーザーと盲導犬は互いに協力し、パートナーとしての絆を深めていきますが、ユニットとなった後も、必要に応じて盲導犬協会からフォローアップが行われます。

6 ハーネスを外す日

盲導犬は10歳前後を目安に引退します。引退した盲導犬はボランティアの家で家族の一員として楽しく暮らしたり、育った協会で十分なケアを受けながら、最期まで皆に愛されて過ごします。

盲導犬と歩くユーザーに出会ったら

皆様への大切なお願い

盲導犬は工作中、
白または黄色のハーネス
をつけています。



ユーザーの方へ声をかけてください。

盲導犬を連れていても道に迷ったり、周囲の状況が分からずユーザー自身が不安になる場合があります。

ユーザーが困っている様子を見かけた際は、盲導犬ではなく、ユーザーの方に「何かお手伝いしましょうか」と声掛けをお願いします。

ハーネスをつけた盲導犬は「工作中」です。

盲導犬はハーネスをつけている時は仕事に集中しています。

さわったり、声をかけたりしないようにお願いします。

また、さわらなくても犬の目をじっと見つめるのもやめましょう。

気が散ってユーザーを安全に誘導できなくなってしまいます。

盲導犬におやつなどの食べ物をあげないでください。

盲導犬は、健康管理のため、そしてトイレのタイミングをコントロールするために食事の時間・量も決まっており、犬の体質に合ったドッグフードを、ユーザーが与えています。

「かわいい」と思っても、食べ物や水を与えないでください。

無断で盲導犬やユーザーの写真、動画などを撮らないでください。

ユーザーは視覚に障害がある方ですので、突然シャッター音がすると何を撮られているのかわからず不安になります。またユーザーが写り込む場合は本人のプライバシー侵害の恐れもありますし、カメラのシャッター音やフラッシュにより、盲導犬が仕事に集中できなくなる可能性もあります。

盲導犬の写真を撮りたい場合はユーザーに事前に声をかけ、了解をとってください。

都道府県別の盲導犬実働数 928頭^(※)

(※)全国盲導犬施設連合会に加盟していない育成団体の数字も含む

北海道…50	埼玉県…46	静岡県…40	鳥取県…5	佐賀県…5
青森県…6	千葉県…29	愛知県…34	島根県…13	長崎県…4
岩手県…10	東京都…105	岐阜県…7	岡山県…16	熊本県…4
宮城県…24	神奈川県…66	三重県…10	広島県…22	大分県…12
秋田県…12	新潟県…31	滋賀県…11	山口県…16	宮崎県…10
山形県…7	富山県…7	京都府…12	徳島県…2	鹿児島県…17
福島県…17	石川県…15	大阪府…61	香川県…7	沖縄県…8
茨城県…15	福井県…6	兵庫県…45	愛媛県…13	
栃木県…11	山梨県…18	奈良県…18	高知県…6	
群馬県…8	長野県…18	和歌山県…4	福岡県…25	

2019年3月31日現在

社会福祉法人 日本盲人社会福祉施設協議会 自立支援施設部会盲導犬委員会
「2018年度盲導犬訓練施設年次報告書」より



募金箱設置・寄附協力企業

敬称略・あいうえお順

- (株)イトーヨーカ堂
- (株)銀座マギー
- ジェームス
- (株)たいらや
- フェリシモ基金事務局
- (株)ベルシステム
- (株)明光ネットワークジャパン
- ユニー(株)
- (株)LIXILビバ
- (株)エコス
- (株)ゲオ
- (株)セブン&アイ・フードシステムズ
- (株)ダイエー
- (株)フジ
- (株)マスタ
- メットライフ生命保険(株)
- (株)ヨークマート
- (株)和真

以上の企業様のほか個人店舗設置の募金、企業や大勢の個人の皆様のご寄附・ご協力により、当連合会の活動は支えられ、運営されています。

皆様からお寄せいただく募金・寄附は、盲導犬無償貸与事業にかかる費用として役立てられる他、盲導犬を育てる訓練士の資格認定、全国的なイベントでの啓発活動など、盲導犬事業のための、共通に関わる費用として、活用させていただきます。

パトラッシュの募金箱。
全国各地で活躍中!



©NIPPON ANIMATION CO., LTD.

パトラッシュ基金

全国盲導犬施設連合会と日本アニメーションが発足した「パトラッシュ基金」では、募金箱の設置、チャリティーオークションの開催、各種イベントでの募金活動、インターネット募金の受付などの活動を行っております。詳しくは公式サイト、もしくは全国盲導犬施設連合会までお問い合わせください。

日本アニメーション株式会社
〒104-0061 東京都中央区銀座 7-11-14 uhb ビル
TEL 03-3574-6281 (平日 10:00~16:00)
公式サイト www.nippon-animation.co.jp/pattrash/



補助犬OKの気持ちはステッカーで表示を

OK!

全国盲導犬施設連合会では、盲導犬や介助犬、聴導犬を受け入れることを示していただくための「補助犬同伴可ステッカー」を作成して、入口等に貼っていただいています。このステッカーを店頭貼っていただくことにより、一般のお客様に補助犬に対する理解を深めていただくとともに、補助犬ユーザーの方々に安心して各施設を利用いただけることを趣旨としています。「補助犬同伴可ステッカー」についてのお問い合わせは全国盲導犬施設連合会にお電話(03-5367-9770)、もしくは当連合会ホームページをご覧ください。



〈補助犬同伴可ステッカー〉

メットライフ生命は1995年以来、盲導犬育成活動のご支援を続け、2020年で25周年を迎えました。



MetLife
メットライフ生命

いい明日へ、ともに進んでゆく。

www.metlife.co.jp

2019
(令和元)
年度

全国盲導犬施設連合会 主な活動報告



「盲導犬普及啓発活動」を日本全国で30回実施

多くの皆様へ盲導犬について知ってもらうために全国各地へ出向き、盲導犬の仕事や訓練方法を紹介するイベントを実施しました。(主に募金箱設置店や寄附協力企業のご協力により開催)



補助犬ふれあい教室・コーナー
(株式会社ダイエー)



エコ博 (ユニー株式会社)



盲導犬ふれあい広場
(株式会社フジ)



2019年度も、インターネット募金、各種イベントでの募金活動を実施しました。(写真はベルギー・フランダース政府貿易投資局様の出展ブースにて)

盲導犬受入の促進



●補助犬同伴可ステッカーの作成配布

店舗などで補助犬ユーザーの受け入れをスムーズに実現していただけるように「補助犬同伴可ステッカー」を配布しました。

●盲導犬受け入れ全国調査実施

盲導犬同伴による施設利用の実態について把握するため、全国のユーザーを対象に「盲導犬受け入れ全国調査」を実施しました。調査結果は当連合会HPで公開中です。

認定NPO法人全国盲導犬施設連合会には、日本全国の盲導犬協会8団体(P13～P14参照)が加盟しています。皆様からお寄せいただいた募金・寄附は日本全国の盲導犬育成と普及の為に、大切に活用させていただきました。

盲導犬普及を進める広報誌を発行



●「DUET28号」とポスターを発行(年1回)。

盲導犬訓練士と歩行指導員の資格の認定を特集。募金箱と一緒に常設する他、各種イベントで配布しました。

●「盲導犬情報」を発行(年2回)。

盲導犬ユーザー、点字図書館、行政などへ盲導犬に関する情報を提供する為の冊子です。点字版、CD版の他、墨字(活字)版も発行しています。



全国盲導犬施設連合会ウェブサイトでも閲覧可能!

全国盲導犬連合会

検索

盲導犬訓練士・歩行指導員の資格認定



ほぼ同じレベルの盲導犬を全国どこの盲導犬協会でも輩出できるように、業務に携わる訓練士と歩行指導員の資格認定をしています。筆記試験・実技審査の結果、2019年度は2名の訓練士の資格を認定しました。

皆様のご支援・ご協力で2019年度の事業を行うことができました。誠にありがとうございました。

盲導犬育成費用への助成



無償で貸与している盲導犬の育成費用に対する自治体からの助成金には頭数・金額に限りがあるため、盲導犬協会が、視覚障害者の方へ盲導犬を貸与する場合、全国盲導犬施設連合会から一部補助として、1頭ごとに200万円の助成・補助を実施しています。

(2019年度は27頭分を助成・補助)

盲導犬育成ジャパンセミナーの実施



各盲導犬協会の訓練士等が、現場での事例や研究成果を発表する今年度で5回目を迎えた「盲導犬育成ジャパンセミナー」を実施。互いの知識や経験を相互に学び合う事で、良質な盲導犬の育成と視覚障害者の自立支援実現へ向けた、研鑽の場となりました。

国家公安委員会指定 加盟施設一覧



認定NPO法人

全国盲導犬施設連合会

HPアドレス: www.gd-rengokai.jp
〒162-0065 東京都新宿区住吉町5-1 吉村ビル2階 TEL 03-5367-9770 FAX 03-5367-9771

公益財団法人 関西盲導犬協会

会長 濱本 捷子 HPアドレス: www.kansai-guidedog.jp

〒621-0027 京都府亀岡市曾我部町大飼末ヶ谷18-2
TEL 0771-24-0323 FAX 0771-25-1054

世界的にも稀な木造犬舎「木香テラス」では、より家庭に近い環境の中で盲導犬を育成しています。木香テラスで育った盲導犬とともに、視覚障害者が安全に歩行し、安心して暮らせるよう、盲導犬の育成、社会への啓発活動に積極的に取り組んでいます。



社会福祉法人 日本ライトハウス

理事長 橋本 照夫 HPアドレス: www.lighthouse.or.jp

法人本部 〒538-0042 大阪府大阪市鶴見区今津中2-4-37
TEL 06-6961-5521 FAX 06-6968-2059

盲導犬訓練所 〒585-0055 大阪府南河内郡千早赤阪村東阪1202
TEL 0721-72-0914 FAX 0721-72-0916

日本ライトハウスは目の見えない・見えにくい方のための総合福祉施設です。日本で初めて視覚障害リハビリテーションセンターを開設しました。盲導犬事業は1970年に開始し、2020年に50周年を迎えます。これからも視覚障害者がその人に合った方法で、積極的に社会参加を出来ることを目標に活動致します。



社会福祉法人 兵庫盲導犬協会

理事長 堀口 清隆 HPアドレス: www.moudouken.net

〒651-2212 兵庫県神戸市西区押部谷町押部24
TEL 078-995-3481 FAX 078-995-3483

視覚障害者が笑顔で安全に歩けるように…役職員一同、情熱を持って盲導犬育成に取り組み、盲導犬使用者それぞれのニーズに応じたサービスを提供しております。また、社会全体へ視覚障害者や盲導犬への理解を深めて頂くために、地域の小・中学校や商業施設での啓発活動にも力を注いでいます。



公益財団法人 九州盲導犬協会

理事長 田中 久也 HPアドレス: www.fgda.or.jp

〒819-1122 福岡県糸島市東702-1
TEL 092-324-3169 FAX 092-324-3386

「良質な盲導犬を一日でも早く、一頭でも多く届けたい。」当協会創業以来の変わらぬモットーです。総合訓練センターでは、盲導犬使用者の皆様に快適にご利用いただける施設としてサービスの向上に努めてまいります。



公益財団法人 北海道盲導犬協会

会長 伊藤 信賢 HPアドレス: www.h-guidedog.org

〒005-0030 北海道札幌市南区南30条西8丁目1-1
TEL 011-582-8222 FAX 011-582-7715

最北端に位置する当施設は雪道歩行、在宅指導、老犬ホームなど、視覚障害者の支援と安心のために様々な取り組みに挑戦しています。待っている人達の笑顔のために、一刻も早く応えることが目標です。



公益財団法人 東日本盲導犬協会

理事長 平崎 憲夫 HPアドレス: www.guide-dog.jp

〒321-0342 栃木県宇都宮市福岡町1285番地
TEL 028-652-3883 FAX 028-652-1417

視覚障害者に対する地域リハビリテーションを重視し、地域に根ざした良質なサービス提供を心がけています。関東一円を中心に、盲導犬の育成・提供をはじめ、白杖歩行等の生活訓練も行っております。



公益財団法人 日本盲導犬協会

理事長 井上 幸彦 HPアドレス: www.moudouken.net

東京事務所 〒150-0045 東京都渋谷区神泉町21-3-3F
TEL 03-5452-1266 FAX 03-5452-1267

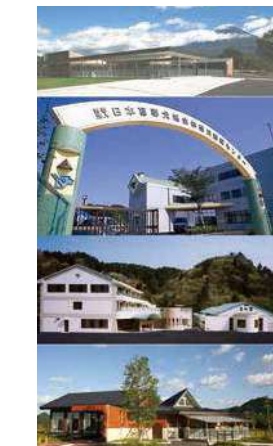
日本盲導犬 〒418-0102 静岡県富士宮市人穴381
総合センター TEL 0544-29-1010 FAX 0544-54-3030

神奈川 〒223-0056 神奈川県横浜市港北区新吉田町6001-9
訓練センター TEL 045-590-1595 FAX 045-590-1599

仙台 〒982-0263 宮城県仙台市青葉区茂庭字松倉12-2
訓練センター TEL 022-226-3910 FAX 022-226-3990

島根 あさひ 〒697-0426 島根県浜田市旭町丸原155-15
訓練センター TEL 0855-45-8311 FAX 0855-45-1139

1967年8月10日に厚生省の許可を受け、日本で最初に設立された盲導犬育成団体です。2017年に設立50周年を迎えました。4つの訓練センターの特色は、神奈川は訓練の中心地、仙台は視覚障害リハビリ、富士宮は出産～引退犬まで一貫飼育、島根は受刑者のバビープログラムです。



社会福祉法人 中部盲導犬協会

理事長 殿塚 猷一 HPアドレス: www.chubu-moudouken.jp

〒455-0066 愛知県名古屋港区寛政町3-41-1
TEL 052-661-3111 FAX 052-661-3112

「両手持ち」を特徴とした盲導犬の育成。かつて身を挺して盲導犬使用者を交通事故から守った盲導犬「サーブ」を育てる。視覚障害者の「安全なガイド」と「心の癒し」を保証するために日々努力しています。

